

経営戦略事業評価調書（平成30年度取り組み状況）

A: 上回った(達成した) (120%超の成果) B: 予定通り(達成した) (120%～80%程度の成果) C: 下回った(達成できなかった) (80%を下回る成果)

■ 地域振興事業

経営方針を踏まえた事業計画		30年度の取り組み状況・実績		30年度取り組み評価	達成できなかった理由、改善策
項目	目標				
<1 指定管理者制度の適正な運用>					
1	指定管理者制度の適正な運用による施設運営の継続	今後も指定管理者制度の適正な運用により、地域振興事業の経営の健全化を図る。	指定管理者のモニタリング調査等を通じ、制度の適正な運用を確保するとともに、収益的収支の黒字化や借入金の計画的な償還を行うなど、経営の健全化を図った。	B	
2	収益的収支の黒字化	平成26年度から平成30年度の指定管理期間内において収益的収支を黒字化する。	収益的収支について、平成30年度は124万円余の黒字となり、平成26年度以降5年連続で黒字を達成した。	B	
3	借入金の計画的な償還	毎年度生じる損益勘定留保資金を借入金償還の財源として優先して充当する。	平成30年度は電気事業会計からの長期借入金(建設改良分)32億2,207万円余を出資金に振り替えた。残る長期借入金(営業運転分)については、引き続き企業局納入金を原資として償還していくこととしており、平成30年度は2,879万円余を返済した。	C	長期借入金(建設改良分)を出資金に振り替えたことに伴い、償還計画を変更したため。
4	ア 今後10年間の更新需要額の試算	10年間で資本的支出は約6,000万円、収益的支出は約8,500万円を見込んでおり、このうち平成30年度は、資本的支出は500万円、収益的支出は1,500万円としている。	平成30年度の達成率について、資本的支出が2,552万円余で510%、収益的支出が2,895万円余で193%であり、資本的支出と収益的支出の合計では5,447万円余で272%である。	A	
	イ 当該期間の主な整備事業	男女トイレ修繕等	ゴルフコース芝生修繕、クラブハウス男子トイレ改修、クラブハウス脱衣室等補修、アクアリゾート清里排風機修繕、アクアリゾート清里空調機分解補修、まぎばレストラン屋根等補修、まぎばレストラン内装改修他		
<2 丘の公園の魅力向上に向けた施設運営のあり方の検討>					
事業継続が可能となるような事業規模や県民の新たな余暇ニーズに対応した施設運営のあり方等が問われていることを踏まえ、外部検討委員会による検討を行い、丘の公園の魅力向上に努める。		-		外部委員8人により構成された地域振興事業(丘の公園)あり方検討委員会からの報告を踏まえ、平成29年度に地域振興事業(丘の公園)の今後の取り組み方針を策定した。	
<3 経営の効率化・健全性の確保>					
1	財政基盤の強化・効率化	より一層の事務的経費の縮減を図り、経営の効率化に努める。	前年度に比べ、事務的経費の縮減を行った。(H29:110万円→H30:40万円)	B	
2	その他経営基盤強化	ア ハケ岳南麓地域の振興	清里ウォーク等のイベントに協力する。また、地元の関係者や県関係機関等と連携し、ハケ岳南麓の地域振興のあり方等について検討する。	B	
3	資金管理・調達	財政健全化法の施行により資金不足比率が導入されたことも踏まえ、資金不足とならないよう納入金を安定的に確保するとともに、施設の維持管理経費等の支出は、収入に見合ったものとする。	納入金について計画通り確保する一方で、施設・設備の計画的な更新・改修を行った結果、資金不足比率は△2.2%となり、資金不足は生じなかった。	B	
4	危機管理の体制整備	ア 緊急時の対応	災害その他の事故等が発生した場合を想定したマニュアル等に基づき、緊急事態発生時には、指定管理者と連絡を密にし、適切な対応を図る。	B	
	イ ゴルフ場の農業使用の適正化	農業の使用については、「山梨県ゴルフ場における農業の安全使用に関する指導要綱」に基づき適正に行うほか、定期的にゴルフ場からの流出水についても水質検査を実施し、ゴルフ場における農業使用の適正化を図る。	農業使用量について、平成30年度は県内ゴルフ場の平均使用量に比べ70.5%であった。ゴルフ場からの流出水については、9月7日及び10月19日に水質検査を実施し、農業は不検出であった。	B	

経営戦略事業評価調書（平成30年度取り組み状況）

A:上回った(達成した) B:予定通り(達成した) C:下回った(達成できなかった)

経営方針を踏まえた事業計画		30年度の取り組み状況・実績	30年度取り組み評価	達成できなかった理由、改善策
項目	目標			
4 危機管理の体制整備 ウ アクアリゾート清里プール、温泉の衛生管理	プールの水質は、「山梨県プール維持管理指導要綱」に基づき、遊離残留塩素濃度は毎日、過マンガン酸カリウム消費量、水素イオン濃度、大腸菌群、濁度は毎月1回以上の検査を実施するとともに、温泉の水質は、「山梨県レジオネラ症発生防止対策指針」に基づき、年2回以上の検査を行い、適切な管理を行う。	プールについては、遊離残留塩素濃度は毎日、過マンガン酸カリウム消費量、水素イオン濃度、大腸菌群、濁度は毎月1回以上の検査を実施し、いずれも水質基準に適合した。 全ての風呂について、6月、9月に水質検査を実施し、遊離残留塩素濃度は基準を満たしたほか、レジオネラ属菌についても不検出であった。	B	
計画	目標	30年度の取り組み状況・実績	30年度取り組み評価	達成できなかった理由、改善策等
<4 投資・財政計画(収支計画)>				
1 投資試算(投資計画)	施設・設備の計画的な整備を行うために、H28年度から10年間で設備改良費6,000万円、修繕費8,500万円を見込んでいる。このうちH30年度は、設備改良費が500万円、修繕費が1,500万円としている。	平成30年度の達成率について、設備改良費が2,552万円余で510%、修繕費等が2,895万円余で193%であり、設備改良費と修繕費の合計では5,447万円余で272%である。	A	
2 財源試算(財源計画)	指定管理者からの納入金が大部分を占めている。納入金については、平成30年度までは年間1億5,000万円が推移する。	納入金について、計画どおりに1億5千万円の事業収益を計上した。	B	
3 投資・財政計画(収支計画)	収益的収支については、平成30年度は2,342万円余の黒字が見込まれる。 資本的収支については、各年度において設備改良費、借入金の償還費など約6,500万円から約8,700万円の支出が見込まれ、損益勘定留保資金などの内部留保資金を財源として充てることにより対応していく。H30年度は、7,552万円余の支出が見込まれる。	収益的収支については、2,342万円余の黒字見込みに対し、124万円余の黒字であった。 資本的収支については、7,552万円余の赤字見込みに対し、5,431万円余の赤字であり、不足額については、損益勘定留保資金などの内部留保資金を充当した。 長期借入金については、7,052万円余の償還見込に対し、32億5,086万円余の償還を行った。	B	資本的収支については、赤字額が計画比28%程度縮減した。収益的収支は、施設・設備の老朽化に伴い修繕費等が増加したことにより計画比5.3%となった。 また、平成30年度は電気事業会計からの長期借入金(建設改良分)32億2,207万円余を出資金に振り替えた。残る長期借入金(営業運転分)については、引き続き企業局納入金を原資として償還していくこととしており、平成30年度は2,879万円余を返済した。